

議会質問・一般質問から

金子議員のこれまで行ってきた一般質問内容と答弁について紹介しています。前号に続き「ふるさと納税」についてであります。

ふるさと納税について②

質問・金子かずお議員

最近では、お礼の品物だけが注目されるようになり、雑誌のふるさと納税特集でも、多くの形態としては、どこの自治体は、どんなプレゼントが送られてくるといったものだけで関心が集まっているようです。行政経済学では人の思いや好み、そういうものに対して左右されるというようなことになるということで、少しこの制度がひとり歩きをして、本来の納税の枠から外れていくのではないかとというような心配があるというような形を危惧する文章も目にするわけであります。

うまく寄附金を集める自治体と、アピールの下手なところでは集まるお金に大きな差が生じてくると。そうすると、当然普通の形で納税があれば、全部その居住する自治体に入るわけですが、そうじゃない、ふるさと納税なんかでいけば、他の自治体になってしまうわけですから、大変その自治体としては努力をしても不本意な形になっていくというようなことにつながるということで、私は一定程度問題化することは必要なのではないかというふうに思っておりますけれども、つくば市では、今のところを何かお考えを持っているかどうか、お尋ねしたいと思います。

答弁・神部政策イノベーション部長

議員からご指摘いただきました点につきましては、今さまざま考え方や



その態度、実際どうやっていくのかといったことが、自治体ではいろいろと考えられていると承知しております。

実際、納税の考え方につきましては、住民が住んでいるところに対して住民サービスを受けるために税を支払うというのが基本的な考え方というのを、我々もそういう考え方も重々承知しております。そういった中で、我々は本年より返礼品を開始させていただきましたが、これにつきましてはやはり、実際に我々が寄附としていただいている額と、実際につくば市から他の自治体へ流れていっている額の差が大きくなってしまっていることというのをどういうふうに、しっかりそれに対しての対応をしていくべきではないのかというのが1点あるのとともに、この制度自体も、実際につくば市を好きになってもらう、つくば市を知ってもらうといった手段としては有効であるのではないかというふうに考えております。

ただ、これをお金を、寄附を集めるためにやるというのではそれは意味がないと思っております。こういった取り組みを通じて、つくばを知ってもらい、それがきっかけとなり、こういう制度がなくても実際につくばのものを買ってもらい、つくばに来てもらう、そういった流れをつくっていく、そういった長い目でこの制度を活用していく、そういったことが大事ではないかというふうに考えて取り組んでいきたいと思っております。